

小学生とSDGsゲーム

2018年に名古屋市北区で作成したSDGsゲーム。小学校5年生と総合学習の時間にやってみました。ゲームにして楽しく、分かりやすくすること、ふりかえりをする事の大切さを再認識しました。

☆SDGsゲーム

2018年に名古屋市の職員さん、中学校の先生とともに中学生向けにSDGsへの意識を持ってもらおうと開発したカードゲームです。「私たちがカエルまちの未来」と題して、ゲームの進行で架空の自治体、キタキタ市がどんなまちになるのか？を地域の方と一緒に考えるために作成しました。

☆プログラムを変更

お招きくださった小学校は、今年度、総合学習で「国際理解」をテーマに行うとのことで、SDGsについてしっかりと勉強していて、途中でこのゲームを入れてくださいました。(もちろん、この後も、しっかりと定着させるプログラムが組まれています)

予習がしっかりしていること、2コマお時間をいただけたこと、小学校5年生向けということでプログラムを変更しました。

変更前	変更後
前半→現状を共有→後半→ふりかえり	前半→現状を共有→後半→ふりかえり →もう一度ゲーム

もう一度ゲームをする、というのが奏功して、最後のゲームの時間では、みんなで相談して、どんなまちにしたい？を話し合ってから進めていました。



☆納得度が高まった自治

このゲームを進めるにあたり、手持ちのカードがなくなった！というグループからの相談に、「どうしたらいいと思う？みんなで話し合ってから決めていいよ」というと、「わー」という歓声とともに早速話し合いが始まりました。

とても楽しそうに交換のレートを決めたり、ルールを決めたりしているのを見ると、自分たちでルールを決めて進めていくことで、まちに対する愛着や仲間との意識がより醸成されたようです。これはまさに、自治ですね！

最後に、とても楽しかった。ありがとうございます！と言われ、こちらもより、うれしくなりました。

*自分たちで話し合ってから決めて、実行する！自治の基本が行われると、ゲームでも参加意識が醸成され、コミュニティの絆がより強くなっていくことを目の当たりにできた機会となりました。